

文化

弥生期の暮らしに迫る 桜ヶ丘銅鐸・銅戈群を展示

1964年に神戸市灘区で発見された国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」に焦点を当てながら弥生時代の集落の暮らしを紹介する特別展「銅鐸とムラ」が、神戸市中央区京町の神戸市立博物館で開かれている。国宝23点、重要文化財5点を含む約110点を展示している。

弥生時代の祭祀で用いられた青銅の鐘・銅鐸は、全国各地で500点以上発見されている。桜ヶ丘銅鐸・銅戈群からは、銅鐸14個と武器銅器の銅戈7本がまとまって見つかった。農耕に関わる動物や人が描か



神戸市立博物館
神戸市灘区の中で偶然見つかった桜ヶ丘銅鐸などが並ぶ。神戸市中央区京町、神戸市立博物館

れた国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」に焦点を当てながら弥生時代の集落の暮らしを紹介する特別展「銅鐸とムラ」が、神戸市中央区京町の神戸市立博物館で開かれている。国宝23点、重要文化財5点を含む約110点を展示している。

六甲山南麓の眺望の開けた場所に築かれたムラ、高地性集落からは弥生土器や石器、鉄器も出土。多くの遺物が出土した伯母野山遺跡など近隣の3遺跡も紹介する。同館の菅原朋奈学芸員は「弥生時代の暮らしの一端を感じてもらえたら」と話す。

8月31日まで。午前9時半～午後5時半。月曜休館（11日は開館）。12日休館。一般1500円など。同館 ☎078・391・0035 (安藤真子)

阪神・淡路大震災30年特別展 西田真人 日本画展



今年6月24日、西田真人は皇居でのお茶会に招かれ、天皇、皇后両陛下、愛子さま、秋篠宮ご夫妻、佳子さまに自作を説明した。2024(令和6)年度日本芸術院賞受賞「祠」を前にしてのことである。

島根県出雲市日御碕にある磐島という岩塊を描いている。この島は神の依代として古代からの聖地であり、神社の神事以外では立ち入ることができない。岩にぶつかると白波はリアルだが、海は水鏡として抽象画のように表現され、水の中の柱が深い神秘性を生み出している。

全国の「二の宮」101社を描くというライフワークから得られた墨線調の作品で、神が岩に鎮まっている。古めかしく言えば「観覧の栄」に浴した作品が、神戸に帰ってきた。

(神戸ゆかりの美術館館長・岡泰正)

「阪神・淡路大震災30年特別展 西田真人 日本画展―再生の祈り―」をこめて(神戸新聞社)主催は9月15日まで、神戸ゆかりの美術館(神戸市東灘区向洋町中2)で開館。月曜8時30分休館。一般1300円。☎078・8558・1100

紙管を資材とする建築設計で知られる建築家・坂茂さんのインタビュー記事がとてよかつた。「えぶ」という雑誌(ちゆうでん教育振興財団発行)の夏号に掲載されているものである。

ボール紙で作った椅子とか、紙のパイプで作った支え棒とかは、材料の紙から想像するよりもはるかに強靱なものである。その構造的な仕組みは建物にも応用できると思いついたのは、尊敬するフィンランドの建築家のアシスタントをしたときに、短期間の展示に木材を使い、撤去したあとにゴミになるというのがなんとも「もったいない」と思ったからだ。坂さんは語る。それはエゴロジの意識から発したものだ。というよりも、親に叩き込まれた心構えのよるものだった。

これをきっかけに、構造設計の人にも相談ののちもろって知りえたのは、「材料自体の強度とそれを使った建築自体の強度は全く無関係」だということだった。弱いものを弱いなりに使う発想を手に入れたのだという。

資材としては安く、すぐに入手でき、またすぐに組み立てられるというのは仮設の建物にはぴったりだった。民族紛争や戦乱で難民となった人たちのキャンプ、あるいは災害の被災地の避難所、仮の住まいとして、あるいはプライバシーを確保する間仕切りとして、この紙の建築は苦境にある多くの人びとの暮らしを支えた。

すべきことをする

わたしがいいなと思ったのは、じぶんがしているのは被災者に「寄り添う」行為ではないという発言だ。震災の現場で痛感したのは、人がいのちを落とすのは地震によってではなく、建物が崩れる

わたしがいいなと思ったのは、じぶんがしているのは被災者に「寄り添う」行為ではないという発言だ。震災の現場で痛感したのは、人がいのちを落とすのは地震によってではなく、建物が崩れる

わたしがいいなと思ったのは、じぶんがしているのは被災者に「寄り添う」行為ではないという発言だ。震災の現場で痛感したのは、人がいのちを落とすのは地震によってではなく、建物が崩れる

わたしがいいなと思ったのは、じぶんがしているのは被災者に「寄り添う」行為ではないという発言だ。震災の現場で痛感したのは、人がいのちを落とすのは地震によってではなく、建物が崩れる

わたしがいいなと思ったのは、じぶんがしているのは被災者に「寄り添う」行為ではないという発言だ。震災の現場で痛感したのは、人がいのちを落とすのは地震によってではなく、建物が崩れる

汀にて 鷺田清一



わだ・きよやす 1949年京都市生まれ。京都大学大学院博士課程修了。元大阪大学総長、元京都市立芸術大学長、サントリ文化財団理事長、書評は臨床哲学。「モードの迷宮」(サントリ学芸賞)、「睡」(ことば) (桑原武夫学芸賞) など著書多数。

そんな二つの活動を知り、感じ

入っていたせいもあってか、わたしはこの間の参議院選挙で、わが党はこうする、こうしたいと張り上げる声はもういなくなった。それよりもこれまであなたがたの党は何をしてきたかの検証こそ知りたいと思った。その意味では坂さんの、「エゴロジ」とか「寄り添う」などという意識で動いたのではなかった、ただ職業人としてすべきことをしたただけだという発言は、そして吉村さんの記録する作業に徹した執筆は、ほんとうに潔い。

苦境にある人たちのもとへ通って、職業人としてすべきことをしたのは、もちろん建築家や作家だけではない。大きな災害が起こると、かならずそこに駆けつける理容師や調理人、演奏家、さらに僧侶や歯科医師がいる。補助金申請の書類作成を手伝おうという事務職員や、人手が要するならとらり現れる造形作家もいる。

職業人として、居ても立ってもいられずということはもちろんあるだろう。でもわたしはそれらを職業倫理のようなものとして論じたいとは思わない。むしろ「責務」と感じたその思いのなかに、深い「自由」を感じる。

深い思考

美学者であり演劇家でありながら、いろいろな公職にも就いた山崎正和さんは生前、「演技の哲学」ともいえる著作「演技する精神」(中央公論社)のなかにこう書きつけていた。

「職業を役として演じることによって、われわれは、自分がその職業的地位そのものであることを拒んでいる」と。

そのとき人は「自分がその職業によって完全に説明される人自身は演じている」というかたちで当の「役」の外に立ち、おのれを対象化しているのだから、そのかきり「自由」だということだ。この思考は深い。世界からじぶんを解除しながら、同時にじぶんがその世界の一部であることを認める。だからじぶんがある役をいかに立派に務めようとも、そこでじぶんはあくまで「かけがえのある」存在である。「自由」はそんな「謙虚な実存」にこそ宿るといえる。手抜きはいっさいせず、ひたすらみずから進んで引き受けた役に徹する。それができる人には、だから「社会貢献」とか「支援活動など」という意識は無用なのである。

◆次回は10月下旬に掲載予定です。

〈職業人の実存〉 責務の中に感じる自由

から。だとすれば、建築家がそれを改善するのはあたりまえ。「被災地向かうのは、医者が医者としての仕事を、建築家が建築家の仕事をするために他なりません」というのである。建築家としてすべきことをしているだけのことだ。

この記事を読んだとき、作家・吉村昭の「しほは「記録文学」と呼ばれてきた作品群の一つをちよと読みました」という文章があった。「三陸海岸大津波」(文春文庫)である。三陸海岸が好きでよく旅した作家は、かつて大津波を経験した人たちの言葉を聞き、書き留め、子どもがのちに書いた作文集を書き写し、さらに成人したその子どもを訪ねて耳を傾けるといふふうで、一人のもの書きとして果たせる責任を全うしようとした。

苦境にある人たちのもとへ通って、職業人としてすべきことをしたのは、もちろん建築家や作家だけではない。大きな災害が起こると、かならずそこに駆けつける理容師や調理人、演奏家、さらに僧侶や歯科医師がいる。補助金申請の書類作成を手伝おうという事務職員や、人手が要するならとらり現れる造形作家もいる。

職業人として、居ても立ってもいられずということはもちろんあるだろう。でもわたしはそれらを職業倫理のようなものとして論じたいとは思わない。むしろ「責務」と感じたその思いのなかに、深い「自由」を感じる。

深い思考

美学者であり演劇家でありながら、いろいろな公職にも就いた山崎正和さんは生前、「演技の哲学」ともいえる著作「演技する精神」(中央公論社)のなかにこう書きつけていた。

「職業を役として演じることによって、われわれは、自分がその職業的地位そのものであることを拒んでいる」と。

そのとき人は「自分がその職業によって完全に説明される人自身は演じている」というかたちで当の「役」の外に立ち、おのれを対象化しているのだから、そのかきり「自由」だということだ。この思考は深い。世界からじぶんを解除しながら、同時にじぶんがその世界の一部であることを認める。だからじぶんがある役をいかに立派に務めようとも、そこでじぶんはあくまで「かけがえのある」存在である。「自由」はそんな「謙虚な実存」にこそ宿るといえる。手抜きはいっさいせず、ひたすらみずから進んで引き受けた役に徹する。それができる人には、だから「社会貢献」とか「支援活動など」という意識は無用なのである。

◆次回は10月下旬に掲載予定です。

翌永禄十三年になってからも、弾正は信長に対して強烈な忠告を繰り返した。信長は前年から、將軍義昭が二度と三好三人衆の脅威に晒されぬよう、大規模な將軍邸を建てるべく、その縄張りに着手していた。

四月十四日、その義昭の居館・二条城が落成した。

祝宴に出席したまじった者は、織田信長、伊勢の北畠具房、三河・遠江の徳川家康、紀伊の畠山秋高、河内の三好義継、摂津の池田勝正、そして大和守護の松永弾正である。この面々が、基本的には北陸討伐軍の構成兵団となった。討伐する標的は、越前の朝倉義景と、この義景と連携する若狭の武藤氏であった。

実は信長は一昨年から昨年にかけて、將軍義昭の名のもとに、朝倉義景に対して二度、上洛を要請していた。

しかし朝倉義景は、その要請を一度とも完全に拒否した。

これには、義景の視点で見れば相応な理由がある、と宗厳は一人で想像した。

◆神戸新聞NEXTでも配信中。



ヤマトマサアキ・画

第二章 (似た者同士 (二十八))

怪我が治り、久しぶりに多聞山城に登城した時、宗厳は正虎から上洛する際の弾正の逸話を聞かされた。

「殿は、我が大書だと必死に止めても『信長が行く以上はわしも上洛する』と、まったく聞かずに持たれたらなかつた」

「そうですか」

「うん、正虎は頼んだ。松永家の主従は、何故か肯定の時にこういう子供っぽい受け答えをする者が多い。

正虎によれば、弾正は続けてこうも語ったという。

「ここが、上総に對する気持ちの見せどころぞ」

さらには、

「わしは、やがては信長の懐刀となるのだ。そこまでの信頼を勝ち得るためには、時には命を懸け物にせねばならぬ場合もある」と言葉を重ね、最後にはこう締めくくった。

「逆に言えば、そこまで我が身を粉にしてこそ、相手もまた本気になって胸襟を開いてくれるというものだ。この人の世の機微が分かる者は、しよせんは世の辻に名を現すことは出来ぬ」

暑中お見舞い申し上げます

令和7年 盛夏

(順不同)

<p>お子様をお持ちのご家庭の暮らしを豊かに</p> <p>株式会社 西松屋チェーン</p> <p>代表取締役社長 大村 浩一</p> <p>姫路市飾東町庄2-6-1 電話 079 (252) 3300</p>	<p>暮らしと社会を支える生命保険</p> <p>一般社団法人 生命保険協会 兵庫県協会</p> <p>会長 岡野 亮一</p> <p>神戸市中央区伊藤町1-1-1 (神戸商工会ビル7階) 電話 078 (332) 6269</p>	<p>培った技術と私たちの挑戦が全ての人の安心を支え続ける</p> <p>株式会社 コベルコ E & M</p> <p>代表取締役社長 浅田 秀樹</p> <p>神戸市灘区岩屋北町4丁目5-2-2 電話 078 (803) 2901</p>	<p>今を越える発想で、健やかな環境と暮らしを次世代へ。</p> <p>株式会社 神鋼環境ソリューション</p> <p>代表取締役社長 奥村 英樹</p> <p>神戸市中央区臨浜町1丁目4-7-8 電話 078 (232) 8018</p>	<p>戸建分譲住宅で土地に貢献する当社があなたの土地を買います</p> <p>ファースト住建株式会社</p> <p>代表取締役社長 中島 雄司</p> <p>尼崎市東灘波町5丁目6-9 電話 06 (4868) 5388</p>
<p>原子力発電所向各種部材、トンネル掘削機、立体駐車場設備、建設機械、その他製缶板金・機械加工及び組立・試運転一式</p> <p>宇津原株式会社</p> <p>代表取締役 宇津原 彰一</p> <p>神戸市長田区二番町3丁目2-1 電話 078 (941) 1170</p>	<p>製鉄関連機械・食品製造機械・一般産業機械の設計製作メンテナンス事業・請負加工組立</p> <p>滝川工業株式会社</p> <p>取締役社長 滝川 松平</p> <p>加古川市平岡町中野2-1-1 電話 079 (435) 1221</p>	<p>空調設備機器保守整備・修理</p> <p>キタックスエンジニアリング株式会社 神戸営業所</p> <p>代表取締役 西本 智彦</p> <p>神戸市中央区浜辺通5丁目1-1-4 (神戸商工貿易センタービル1014) 電話 078 (232) 0334</p>	<p>元気な 愛車の返事は 点検で</p> <p>一般社団法人 兵庫県自動車整備振興会</p> <p>会長 西原 興一郎</p> <p>神戸市東灘区魚崎浜町3-3 電話 078 (441) 1601</p>	<p>トラックは「生活(くらし)」と「経済」のライフライン</p> <p>一般社団法人 兵庫県トラック協会</p> <p>会長 木南 一志</p> <p>神戸市灘区大石東町2丁目4-2-7 電話 078 (882) 5556</p>
<p>梱包、通関から現地まで一貫した物流サービスを提供します</p> <p>マルナガロジスティクス株式会社</p> <p>代表取締役社長 岡嶋 真司</p> <p>神戸市中央区京町7-6-2 電話 078 (332) 5533</p>	<p>販促に、最適な答えを。</p> <p>株式会社 平賀</p> <p>代表取締役社長 中前 圭司</p> <p>本社 東京都練馬区豊玉北3丁目20-2 電話 03 (3991) 4541 (代表) 大阪府天王寺区空堀町3-9 電話 06 (6768) 8229 (代表)</p>	<p>新聞折込広告のことなら</p> <p>株式会社 朝栄社</p> <p>代表取締役社長 西垣 智</p> <p>大阪市福島区福島6丁目2-4-1-9 電話 06 (6453) 0373</p>	<p>オリジナルのうちわ・ポケットティッシュ等、販促グッズ・ノベルティのご用命は</p> <p>販促本舗</p> <p>運営：神広企画株式会社</p> <p>東京都港区六本木2丁目2-6 (六本木福吉ビル3階) 電話 03 (3583) 2828</p>	<p>世界で活躍するマンローランドゴスの輪転機</p> <p>マンローランドゴスウェビシステムズジャパン株式会社</p> <p>埼玉県狭山市広瀬台3丁目7-4 電話 04 (2954) 1141</p>